

No. 897

子供たちは訴える

子供の交通事故は今年に入っても減ることはなく未来の尊い命は消えていく。通学途上で車にはねられるという事故も減りつつあるとはいえ、確実な解決方法もない現在、子供たちには命がけである。

東京都下のある小学校の通学路には、横断歩道はあっても信号はない。陸橋ももちろんない。母親たちは、市教育委員会に請願書を出した。しかし、その度に返ってくる答えは決まり文句であった。

「予算の関係で……」

今年は数カ所に信号のとりつけが決まっておりますのでどうか協力を……」

子供たちは、自分たちで自分の身を守ろうといろいろ考える。都内のある小学校の児童は、通学路の壁に運転する人にわかりやすく大きな絵を書くことを始めた。5年前である。壁画作戦は成功したのか、それ以来事故は確実に減っているという。

ホーム・ルームの時間、子供たちは、いろいろな意見を述べ合う。

「事故を減らすためには」「どうしたら身を守れるか」

子供たちが幼いながら考えた知恵は、子のいうことだからと聞きすててはなるまい。

ただいま特訓中

—バスガイド嬢—

今や春の観光シーズンを迎え、深刻なバスガイド不足に観光バス会社のほとんどが悲鳴をあげています。

東京の定期観光を一手に引き受けるH社では今年70名の高卒者を確保、

先輩のウグイス嬢に続けと連日特訓に明け暮れます。ウグイスの卵は毎日コースの案内書と首びっき、なになんでも暗記をしなければ話しにはなりません、先輩にしごかれつつ四月の初乗車を目指して頑張っています。